

	単元名：説明会を開こう 「和の文化〇〇」			
＜ステップ1＞単元として付けたい力を確定する ○年間指導計画（マトリックス表 年間単元重点一覧表）を活用して年間を見通した上で、この単元でどのような力を付けたいのか、学習指導要領の指導事項の中から確定する。	指導事項 A（1）イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 C（1）カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。			
＜ステップ2＞言語活動を確定する ○ステップ1で確定した付けたい力を育成するのにふさわしい言語活動を適切に選定する。指導事項と言語活動を組み合わせて考えることで、付けたい力をできるだけ具体的におさえる。 ○言語活動を位置付けることによって、子ども自身にとっての相手意識や目的意識に応じた学習活動を可能にすることができる。	言語活動 説明会を開こう 「和の文化〇〇」 ☆資料を活用して説明する。			
＜ステップ3＞言語活動を遂行するための能力をリストアップし整理する ○取り上げた言語活動をもとに、付けたい力を具体的なレベルで明らかにしていく。その能力の全てを1つの単元で重点的に指導するのではなく、下記の点のさびわけが必要。 ① 当該単元で重点的に指導するもの ② 前単元までに既に身に付いている能力なので、当該単元では、それを活用させるもの ③ 子どもたちの実態に照らして、まだ指導するのは難しいため、重点的に扱うのは次単元以降に回し、本単元では手厚く手立てをとり、活動が円滑に行われるように支援するもの	必要な能力 ①＜重点＞いろいろな本や資料を目的を意識して読み、資料を活用して話す力			
	②＜既習＞文章の構成を考え、要旨をとらえる力 資料を活用して考えたことを書く力			
	③＜支援＞自分の考えを明確にしながら文章を読む力			
＜ステップ4＞リストアップした能力を育成する指導過程を構想する ○子どもの実態を十分踏まえた指導過程の構想が大切。陥りがちなのは、「読むこと」において、単元の第三次での言語活動は活発に行えるように指導過程を組むが、第二次で教材文を読む時は、段落ごとに平板に読み進めてしまうというケース。第二次においても、子どもたちの「気になる」「不思議」「調べたい」などといった主体的な思考や判断を生かせるような場の設定が重要。 ○教材を読む第二次では、場面や段落ごとに読み進めるのではなく、指導事項に対応した指導過程を工夫する。 ＜教材を読むポイント＞ 物語文・・・「登場人物の行動」「登場人物の性格」「中心人物の変化」 「情景・心情描写」「優れた叙述」 説明文・・・「順序」「中心となる語」「事実と意見の関係」 「要旨」「自分の考えを明確にして読む」 など	単元計画			
	一次	1時間	①ゴールイメージを持ち、学習の見通しを持つ。 「和の文化」について調べて説明する。	
	二次	6時間	②③④⑤ 目的を意識して教材文を読み、書かれている内容を読み取る。	
	三次	6時間	⑥⑦ 説明する「和の〇〇」についてグループで決め、本や資料など必要な情報を集める。 ⑧⑨⑩ 説明の構成を考え必要な資料を準備し、説明の発表原稿を書く。 ⑪説明の練習をする。 ⑫資料を活用して説明会を開く。 ⑬学習のふり返りをする。	